

# 読む湘南

～少しだけためになる海の話～

vol.5  
2012.4



子供に大人が学ぶ。そんな順序があってもいいんじゃないかな 海辺の環境教育

環境教育。言葉にてしまえば簡単だけれど、では誰が、誰に、どこで、何を、どうやって教えればよいのでしょうか。海は目の前に広がる「大きな教科書」。もっと上手な学び方がきっとあるはずです。

——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



講師 湘南学園小学校教諭  
3年学年主任

錦織 真氏

### ■学校教育の現場から

錦織 湘南学園小学校で3年の学年主任をしております錦織と申します。湘南学園という学校は環境教育や総合学習に高い関心を持っています。そういう学校で行っている子供たちの活動を紹介したいと思います。

湘南学園小学校は藤沢市の私立小学校で来年80周年を迎える。最近は体験した学習をいかに学力に結びつけるか、をテーマに活動を展開しています。総合学習に関しては学年ごとにテーマを決め、そのテーマにそって活動をしております。今回は湘南学園3年生の活動を紹介します。

今年の年間テーマは「湘南の自然・人々とのかかわりを通じて学び、成長する」というものでした。「海を大切にする気持ちを育もう」ということです。海に行って、海で遊んで、海を知りたいと思って好きになって、最後に大切にしようという気持ちになることが大切だと思います。

まずは1学期に油壺で1泊2日の宿泊学習を行いました。そこでビーチコーミングや磯観察、ビーチクラフトでフォトフレームを作ったりして、いろいろ体験します。2学期はさらに活動を広げ、まずは地引き網ですね。地元の堀川綱さんにご協力いただいたのですが、あいにく台風の高波と重なってしまい、地引き網自体は中止になってしまいました。この時、子供が書いた作文を紹介します。

「地引き網をする予定でしたが波が高くできませんでした。それは残念でしたが砂浜にあった船は見れました。船のそばでにおいをかいでもみると海水のにおいがしました。そのにおいをかいだら僕も漁船に乗って漁をしたいと思いました。もし僕が漁師になったら船で海の中に網を設置して網に入った魚をとり、水に入ったものに入れて新鮮なまま保存します。たくさんの人においしい魚を食べてほしいです。その日の夢は僕が漁師になって漁をしている最中に船が沈没する夢でした。その時お母さんに起こされました。漁師になっても沈没するのだけは嫌です。」

面白いですよね。地引き網はできなかったのですが、台風の時に海に行つても活動ができないんだ、と肌を感じる

私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。



ことができたと思います。次に海で採れた生き物はどのようにして口に運ばれるのか、ということを学ぶために行ったのが「かまぼこ作り大作戦」。小田原・鈴廣の職人さんに来ていただきて、一緒にかまぼこを作りました。作る楽しさとお家に持つて帰って食べる楽しさなどで、子供たちも非常に喜んでいました。

それから江の島の磯観察ですね。これはNPO法人のパラガダイビングさんに手伝っていただきました。江の島の裏磯でスノーケリングをしたり、ヤドカリや小魚、ウミウシなどを捕まえたり。磯観察も2度目ですので、子供たちも前回より大胆になってきました。

こうした経験を踏まえて、各クラスで個別に活動を発展させていきます。かまぼこ作りを魚の3枚おろしからやってみようとか、「カツオ節探偵団」と称して、カツオ節屋さんの88歳のおばあちゃんに色々と教えてもらった子供たちもいましたね。そしてそれぞれの活動をまとめて発表会をします。子供たちの頑張りが見てとれて、うれしくなりますね。

3学期はそれまでの「楽しい海」というところから少し視点を変えて、かながわ美化財団の協力の下、海のゴミはどこから来るのか、どんな被害があるのかという話をしていたきました。動物たちがゴミの被害にあってるという映像を見たりすると、子供たちは純粋ですから本当に悲しくなる



地引き網体験で、船の周りに集まる湘南学園の生徒たち

んですね。何とかしなければ、という気持ちになる。その上でビーチクリーンを行いました。すると子供たちは

2012年3月15日

第5回テーマ

やっぱりすごく熱心なんですね。1年のまとめとしては非常に良かったなと思いました。

総合学習のポイントをまとめたいと思います。第一に「地域の人々との連携や触れ合い」が子供たちにとってとても大事だということ。私たちは地引き網にせよ観察にせよ、活動の前に講師の方に来ていただいて、まずは話をうかがいます。すると実際の活動の時、「あ、あの時の〇〇さん」という懐かしい感覚を持つことができます。それから「楽しくて中身のある体験を」ということ。楽しいだけではなくて、問題点や課題も考えてみる。そしてただ体験で終わらせるのではなく、振り返ってみる。すると自分の中で考えが段々まとまっていくんですね。答えが出ない問題もあるけれど、考えてみる。これが大事なんじゃないかなというふうに思っています。

トジ 30年。

片山 30年ですね、失礼しました。サーフテクニックの理論家であり、サーフィンの普及において日本を先導されてきたレジェンドです。ぜひ自己紹介をお願いします。

講師 ピーチクラブ全国ネットワーク理事長  
日本プロサーフィン選手権初代チャンピオン

ドジ井坂氏



トジ ドジ井坂です。昔、サーフィンの世界大会がキャンセルになったことを知らないで行っちゃった時、向こうでついたニックネームが「ドジ」で、そのまま世界的にドジ井坂になってしまいました。売

れないコメディアンではございません(笑)

ピーチクラブという活動を全国11カ所でやっています。毎月、夏でも春でも冬でも秋でもともかく集まって何かをする。365日とは言わずにも1カ月にいっふんくらいは同じ地元の人間がその海岸を見ないで環境って言える?というのが本心です。

地元の人は少ないですが、このピーチクラブ。地元が一番弱いです。一番弱いのが藤沢。海の近くがサーファーに汚染されちゃっていますよ。要するに波乗りしたから移ってきた人がいて、波乗りするためだけの生活環境になっちゃっています。真夏の2カ月間は海水浴場に占領されちゃって、地元の人がまともに江の島の海に行く機会がない海岸です。江の島のピーチクラブは7、8月お休みです。海水浴場があつて活動できないんです。江の島のピーチクラブの活動は9月から海開き、6月は海閉じ、はい終わり!7月8月は他行って遊ぼうね、といって江の島では遊ばない。こんな貧しい街ないんじゃないかな?

のちほど「海岸学」というものについてお話ししますが、震災を踏まえて湘南で一番最初に考えなければいけないことは「海岸」という定義がこの国にはない、ということですよ。やたら陸地がでばって海岸に道路を作り、そしたらそこに波が来ちゃってた当たり前の話。そういう話をちょっとさせていただきます。よろしくお願いします。

片山 ありがとうございます。それでは議論に入ります。まずはなぜ今、環境教育が必要なのかという点。錦織先生、なぜ学校でこれに取り組もうと思ったのですか?

錦織 やっぱりこの震災っていうのの影響が結構あると思います。どうやって海と付き合っていくかとか。海の活動をするあたり、子供たちに「怖い」という意識が芽生えたのは事実です。

なので、ますますそういうことが重要になってくるんじゃないかなと思います。

片山 向山さん、行政の現場でエコスクールという先

## 身近な節約が大きな目標になる

## エコスクール

### パネルディスカッション

片山 それでは第2部としましてパネルディスカッションに移りたいと思います。まずははじめに向山さんとドジ井坂さんお二人に簡単な自己紹介と、ご自身が取り組んでいる活動をご紹介いただきたいと思います。よろしくお願いします。

講師 厚木市役所 環境総務課温暖化防止担当

向山 宏和氏

向山 厚木市役所環境総務課の向山と申します。温暖化防止担当という仕事場にいます。2年前に希望して異動しました。そこで出会ったのがエコスクールプログラム(※説明別項)というものでした。日本での歴史はまだ3年少々と浅く、取り組んでいる学校も20校程度です。熊本県が最も多く、次いで神奈川県です。すでに2校がグリーンフラッグという認証を受けており、いずれも熊本です。保育園と高校ですね。厚木市の場合、今年はやはり震災後だったので、エネルギーの問題もしくは節水の問題に取り組んでいる学校が多くたようです。自分たちで課題を見つけ、計画を立てる。そして何ができるか、それを続けてどうだったか。トライ&エラーを繰り返しながら、問題点を改善していくまです。

特別なことをするわけではないんです。私が視察したスウェーデンのグリーンフラッグ認証校は「紙の節約、水の節約、電気の節約、電池・消しゴムも節約しよう」と。これは日本でも日常的に行っていることです。世界標準のプログラムに組み込むことで、子供たちが目標を持ったり、成果が見やすくなったりすればと思い、導入しているところです。

片山 続いて、ドジ井坂さん。ドジさんは雑誌「サーフィンライフ」の中で「サーフィン・スクール」という連載を20年くらいですか?続けている。

◆エコスクールとは 国際環境教育基金FJEが実施する世界最大規模の環境学習プログラム。世界53カ国で取り組まれており、目標の設定や計画の立案、実践など7つのステップを通じて問題の解決に取り組む。一定の基準を満たした証として授与される「グリーンフラッグ」を目指し、認証を受けた後もプログラムを継続、発展させることで、今度は「グリーンフラッグ」の維持を目指す。

進的な取り組みをされようと思った背景をお教え下さい。

**向山** 行政にとっての環境問題というのは公害が始まりで  
す。ひと時代前の公害は特定の事業者や工場が何かしてしま  
い、それによって引き起こされていた。だから当事者を  
取り締まればよい。もしくは、何か基準を設けて規制して  
いけばよいというものでした。ところが私がメインでやっ  
ている地球温暖化問題というのは産業関係からの温室効果  
ガス排出量が多いのもそうですが、家庭からの排出を見過  
させません。地球を構成している一人一人の意識を変えて  
新しいことに取り組んでいく必要があるだろうと。

解決の決定打はやはり教育、人間を変えること。それも  
正直申し訳ないですけど、今ここに集まっている我々はも  
う、そう変えられないですよね？未来を変えていくのは子  
供だろう。自分たちの地球を守るために、自分たちが世界  
を変えていくといったような人間を育てる必要があるだろ  
う。私は真剣にそう思っておりまます。

**片山** ドジさん、地域でずっと長くピーチ…

**ドジ** 地域じゃないよ、世界中だよ。

**片山** 世界中ですね、時代的な変化の部分を含めてお話し  
ただけますか

**ドジ** 世界中の海を見て思うのは、日本の環境問題ってな  
んてこうネガティブな話しか出てこないんだ？環境問題と  
いって、いい環境の話が出てきたことが、まずない。江の島  
のここがいい、夕景がきれい。まずそういうものを大人  
がきちんと子供に伝えていないから、日本はこんな汚くて  
こんなひどい状態なんだよ、じゃあ何かやりましょうって。  
僕は大反対です。

産業革命の頃、石炭の塵肺で労働者がみんな疲弊したの  
をレクリエーションとして、海岸へ行って病院を建てたり  
海水浴へ連れて行った。それが北ヨーロッパの歴史です。  
それにさらに目を付けた連中が南ヨーロッパでのバカンス



江の島の裏磯を“探検”  
する湘南学園の生徒たち

というものを考  
え出した。つまり海  
岸沿いとい  
うのは、す  
ごい気持ち  
がよく、きれ  
いな場所と  
して整備さ  
れなければ都会  
から人が来ない。  
それが世界中の海岸  
なんです。

ところが日本は  
その頃、江戸時代の残りですからものすごく海がきれいで  
自然豊かな国だったので、国策として海水浴＝富国強兵っ  
て形になった。体力を増進して歐米列強に負けないように  
しよう、それが海水浴。海岸をきれいにしようなんて発想  
がないんですよ、歴史的に。そもそも2ヶ月間しかやらない。  
たった2ヶ月だけよその人が来て、儲かったねとい  
ってあ  
とはそのまま自然放置。明治時代はそれで良かったかもし  
れない。そのまま放っておいたら環境悪くなるの当たり前  
じゃない！反省と歴史の考察もないまま、今汚れているか  
ら日本は日本は、というだけはやめてほしい。

## 地元の人間が海岸も見ないで環境つて言えるの？

変われないって今、向山さんがおしゃったけど、大  
人が変わらない限り無理です。まず自分たちが変わろう  
という意識がない限り、環境なんて変わらないと僕は思  
っている。

**片山** まずは大人が変われるかということですね。次の  
論点として学校で環境教育をどうやって進めるかという  
点を話したいと思います。そのあとで地域、大人が変わ  
れるかという議論に移ります。公立私立含め、小  
・中学校で広げていくためにはどうするか？錦織先生、  
現場で抱えている課題は何でしょうか？

**錦織** 学校の現場では保護者の協力というのが必要なん  
ですね。保護者の方からもっと勉強させてほしい、いわ  
ゆる教科学習に力を入れないとダメじゃないか。そう言  
われてしまうとなかなかやりにくいだろうと思いま  
す。幸いなことに、うちの学校は体験学習を売りにしている  
を理解した上で入っていただいているので、やらない  
ことの方がおしゃりを受けてしまいます。

公立ですと、先ほどの教科学習の優先や費用の面など  
で進めるべき部分もあるのではないかでしょうか。

**片山** 公立学校に全面展開するとしたら、どういった手  
法があるのか。エコスクールを参考に向山さん、お話  
いただけますか。

**向山** 公立の学校ですと、やはり先生が人事異動で動い  
てしまうということ。一部の熱心な先生が異動すること  
で盛り上がりもすれば下火にもなる、というのが現状で  
す。ですからエコスクールのような1つ指標を示して、  
それに乗っかってみませんか？というのも1つの方法か  
なと思います。

**片山** ドジさん、学校で環境教育を進めるべきだとい  
う前提での議論をしてきましたけれど、そもそも学校で教  
えられるのか、教えるべきか。

**ドジ** 無理だと思います。ピーチクラブのことを聞いた  
横浜市から真剣に海水浴、臨海学校をやりたいと言わ  
れて研究したのですが、結局先生を3年、4年かけてトレ  
ーニングしない限り学校ではできないという結論にな  
ってしまいました。環境だ、環境だと環境省のデータを見  
て「ああ、そうか」と言っているだけで、自分が住んで  
いる最も身近なところにどれだけ良いものや悪いもの  
があるのか。季節の移ろい含め、それにコメントでき  
ないまま先生が環境を教えるというのは、それ自体が不可能  
だと思います。

湘南学園の写真を見て残念だったのは、みんなが砂浜  
で靴を履いていること。やっぱり裸足になってくれなく  
ちゃ。指の間まで丸い砂を感じて初めて僕は海岸の環境  
だと思うし、五感で感じる第一歩をまだ踏み出していな  
いと思う。1月でも太陽が出ていれば蓄熱しているから  
裸足でも寒くないとか、曇って2時間経つと結構冷たい  
とか。自分でできる日常的な地域環境を学習していない  
のに、総論的な環境というのは元々無理かなという気が  
します。

**片山** 学校教育では教えられないというご意見でした。  
そこで地域で環境教育が担えるのか、という論点に移っ

ていきたいと思います。向山さん、学校と地域が連携するという発想はないのか、お話をいただきたいと思います。

**向山** 学校の中だけで完結する環境というのはなかなかなくて、地域があつてこそその環境だと思います。ドジさんに「学校では環境教育はできない」と断言されちゃつたんですけど、我々が考えている環境教育は身の回りにあるものはすべて環境であり、そこは外界にながっている。ちっぽけなものから外にどんどん広げていって世の中の環境問題を知ろう、と。その第一歩が学校であってもいいんじゃないかなと思います。行政の立場から言うと、郷土愛があると環境教育は進む。逆に環境教育を始めたことで郷土愛が芽生えることもあるでしょう。ですから郷土愛と環境教育は両輪なのかなと思います。

**向山** ありがとうございました。最後にドジさんから、提唱されている「海岸学」についてご説明をいただけます。

**ドジ** 僕はミニフォーラムのテーマが「海を活かした環境教育」ということで無理だと言ったまでです、学校での環境教育を否定しているのではありません。

先ほども少し触ましたが、陸がものすごい勢いで海へでぱっちゃってるんです。湘南もそうですよ。江戸時代からある国道1号線（東海道）は大体2、3キロ内陸にあって、そこまでは船だったんです。人が住まない畑にして置いておこうと。昭和になって海沿いに道路ができ、道路ができたらその間が土地になってしまって、土地になら人が住んじゃったから、そこを安全にするために防波堤をつくった。まったく地球の論理を無視した国づくりが震災の側面です。海岸にはどれだけ大事な役割があるのか、海岸を間違って使ってきた過去を行政に代わって民間がきちっと議論していくべきです。

海のスポーツに関して、サーフィンとかヨットとかジェットスキーとかそれが競争になっていて交流がない。それじゃあ子供たちに海岸での『総合力』を植え付けてやることはできませんよ。あらゆるスポーツをする機会を含め、「海岸」という輪の中に放り込んでしまえ、と。

エコ教育という言葉はしたくないのですが、僕らはビーチクリーンはやらないようにしています。「このゴミがどこから来たかを考える前に拾うな」と子供に言っています。何で海に行く人が拾わないのか、それをまず子供に疑問に思ってもらいたい。このゴミがどこから来たのか、それを考えた上でどうしても困っているなら拾います。

最近、運動に耐えられないほど子供たちの姿勢が悪くなっています。ちょっとした棒に乗るだけで体のバランスが分かっちゃうんですけど、整形外科の先生によれば

この年齢から肩こり、腰痛が出ているそうです。世の中がバリアフリー過ぎるし、子供同士遊んだり転がったりしてバランスを取る機会が減っているんです。ですから、この姿勢のチェックと遊びを全国に持っていく。海岸沿いの学校は非常にバランスが良いし健康だとなると、その地域のポテンシャルは上がるわけですよね？ そうしたら海の経済価値が高くなる。

海の街として考えなければいけないのは、海に住んでいる人がもっと自然の中に入れて健康にならなくちゃ。皆さんもよく言われるでしょう？ 東京行ってお住まいはどちらですか？ と聞かれて「湘南」と答えると、いいですね！ 毎日海に行けてと言われる。都会の人は湘南の人は毎日海に行っていると思っているんですよ。以上です。

**向山** ありがとうございました。最後に講師3人から一言ずついただければと思います。

**鶴澤** やはりポイントは「連携」と「やる気」なんじゃないかと思います。学校で言えば、教師と生徒のやる気。地域の団体と関わさせていただいているが、みなさんとても熱心で助かっている。地域のいろんな団体と連携しながら進めいくことが大事なんじゃないかなと思います。

**向山** 環境教育をやる中で子供にとってはフィールドがあった方がモチベーションが上がる。自分が好きなところ、身近なところをなんとかしたいという気持ちは、子供は非常にピュアなので真剣に考えてくれます。正直、海のない厚木に比べると藤沢が羨ましいです。海に近い学校は海を好きになる。郷土を愛するという部分も含めて。また家庭でもみんな子供を海に連れて行くといいんじゃないかな。そのときは裸足で（笑）

**ドジ** やっぱり学校だけじゃ子供は育たないと思うんですね。地域の大人がどれだけ関わっていてるかによって、子供の成長が全然違う。特にこのビーチクラブで子供から大人が教わることが多いです。子供から教わるくらい大人が謙虚になれば、子供たちはもっともっと素晴らしいことをやってくれるだろうし、僕らが考えていることをうまく継承していってくれるだろうなと思うこの頃でございます。どうも！

**向山** 私の感想としては、このテーマを設定した時、小学校で環境教育をやるべきだと考えていました。それももちろん必要ですけれど、やはり地域で子供たちと大人が触れ合、あるいはそもそも家庭で教えるべきだと。教育という苦しいものではなく、子供も大人も生活中で学んでいくもののではないかと強く感じました。以上でパネルディスカッションを終わります。3人の講師の方々ありがとうございました。

## 裸足で砂を感じて第一歩

### キューブを使って シーカヤック体験



## 海辺の人間は海に入つて健康にならなくちゃ



心臓マッサージ体験  
ビーチクラブ出前活動から



加藤 佳代子さん  
大和くん(8歳)  
賢人くん(2歳)  
▼狭山市在住

「パパがサーフィンしているので  
私たちは水族館」という加藤さんフ  
アミリー。おそろいのダウンジャケ  
ットがピーチで目立っていました。

しみず さとしさん  
みくちゃん(6歳)  
きほちゃん(2歳)

▼藤沢市片瀬海岸在住  
「面白い石見つけたんだよ！」  
とみくちゃんが見えてくれたのは、  
人の顔のような石。お父さんは「すぐ海に散歩に来られる  
のが一番のメリットですね」。  
小学校入学を間近に控えたお姉  
ちゃんが、一生懸命3人の名前  
を書いてくれました。



高井 典子さん  
理央くん(5歳)  
桃花ちゃん(2歳)

▼藤沢市鶴沼海岸在住  
「裸足で歩けるのが一番  
の魅力。海でたくさんのママ  
友もできました」。基本  
パターンは「公園で遊んで  
暑くなったらそのままザブ  
～ン」だと。正しい海との  
付き合い方です！



黒木 あかりさん  
こはるちゃん(6ヶ月)

▼藤沢市鶴沼海岸在住  
「自宅の窓から海が見える  
ので、波のチェックはそこか  
ら。ピーチの“んびり感”  
が好きです」と気持ちよさそ  
うにひなたぼっこを楽しんで  
いました。ちょっと人見知り  
なこはるちゃん、もう少し大き  
くなったら、ママと一緒に  
サーフガールになるのかな？



佐藤 俊三さん  
香苗さん  
波琉くん(2歳)

▼世田谷区在住  
「夫婦でサーフィンを  
するという佐藤さん。波  
琉くんを見ながら交代で  
海に入るのだと。『動物  
がいて鳥が飛んでいい、  
というのが楽しい』

## 親子ピーチ

Q. 子供と海に来て「いいな」と思うことは？



田中 将之さん  
優斗くん(6歳)  
心海ちゃん(5歳)

▼茅ヶ崎市浜之郷在住  
「海はそうちょうどよく来る  
わけではないけど、やっぱり子  
供が喜びますよね」。優斗くん  
は早速波打ち際で「クツが汚れ  
た！」。パパも苦笑いでした。



高木 善弘さん  
聖子さん  
佑大くん(6歳)  
碧衣ちゃん(3歳)

▼横浜市港南区在住  
「子供が元気にはしゃいでいる姿  
を見るとうれしくなります」。佑大  
くんも碧衣ちゃんもズボンをひざま  
でまくって波と戯れていました。



神島 栄子さん  
直人くん(6歳)

▼鎌倉市腰越在住  
「歩いて海水浴に行かれる  
のは何よりの費資。カニを捕  
まえたり、自然や生き物と触  
れ合えるのがいいですね」

岡島 恒太朗くん(8歳)  
▼さいたま市北区在住  
「埼玉には海がないので、  
たまに来たくなります。今日は春休み最後の  
思い出作り」とお母さん。恒太朗くんも大きな声で  
「海大好き！」



# 私たちが目指す理想のまちづくり

## 「湘南都市構想2022」とブルーフラッグの取得

「湘南ビジョン研究会」は、10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」の作成とビーチの国際環境基準「ブルーフラッグ」の認証取得を目標として掲げ活動しています。

### ◆湘南都市構想2022

キックオフミーティングに参加30人  
第2回会議は5月20日開催

「湘南都市構想2022」策定チームメンバーを募集させていただいたところ、学者、研究者、企業経営者、コンサルタント、議員、行政マン、NPO、マスコミ、自治会、写真家、オーシャンアスリートなど多彩なメンバーが揃いました。

4月14日(土)に第1回「湘南都市構想2022」策定会議(キックオフミーティング)を開催。雨にも関わらず約30人のメンバーが集まりました。第1部では、神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整部長の宮治正志氏

に、「湘南地域の現状と課題～これからの湘南地域のまちづくり～」と題して基調講演をいただき、その後、当研究会代表から「湘南都市構想2022」の策定意義や今後の進め方を説明させていただきました。

第2部では「スポーツ・教育」「観光・産業」「福祉・医療」「防災・交通」の4分科会に分かれて、湘南地域が抱える課題について熱い議論を交わしました。

12月まで月1回程度の会議を開催し、「現状と課題の整理」「将来都市像の作成」「基本方向の作成」「施策立案」「重点プロジェクト立案」の順で策定作業を進めていきます。最終的には政策論集としてまとめ、様々なメディアを通して発信していきたいと思っています。

第2回会議は5月20日(日)を予定しています。みんなで自由に話し合いながら作っていきますので、参加や見学を希望される方はぜひご連絡ください。



連絡先 shonan\_vision@hotmail.co.jp 担当：片山

## 海の底は無法地帯？

法が未整備のため、誰が管理するのかすら定まっていないのが現状です

来たる4月21日、湘南ビジョン研究会では「江の島海底清掃プロジェクト」を行います。日本では2009年に海岸漂着物についての法整備がなされたものの、海底ゴミについての法制度は未整備なのが現状です。そのため海底ゴミに対する行政の責任は定まっておらず、漁協が操業時や一斉海底清掃として行う自主的な回収のほかは海底に沈んだまま放置されています。

こうした現状を踏まえ、湘南ビジョン研究会では「海をつくる会」のダイバーの皆さんにご協力いただき、江の島の海底に沈むゴミの実態を調査して、その結果を元に第6回ミニフォーラムを行います。「海をつくる会」は「山下公園海底清掃」などの海底清掃活動を中心に、アマモ再生のための植栽など海に関するイベントを30にわたり行っているボランティア団体で、今回の海底清掃も全面的にサポートしてくださいます。江の島を海の底からキレイにし、ミニフォーラムではこれからのお海の課題と取組みについて、さらには湘南海岸の生態系を守るには何が必要かを議論していきます。

### 第7回湘南ミニフォーラムのご案内

テーマ「湘南海岸の海浜ルールを考えよう」

▼日 時 5月20日(日) 19:00~20:50

▼場 所 藤沢産業センター8階 第3会議室

(地図参照)

海には漁師さんもいればサーファーもいる、もちろん海水浴を楽しむ人もいれば、散歩するだけの人もいます。思い思いの方法で海と付き合えばいいじゃん！と思う一方で、ときにそれぞれの利害が一致しないのもまた現実

です。みんなで仲良く海やビーチをシェアする方法はないのでしょうか？

湘南ビジョン研究会は、このミニフォーラムへの参加者を募集しています。上記連絡先またはホームページ([www.shonan-vision.org](http://www.shonan-vision.org))からお申し込み下さい。



# ともちゃんほるもん

ウチはマルチョウ推します。

プリップリでジュワ～、です(笑)

七輪でホルモン

＝煙モクモク、オ

ヤジの聖地。それ

はそれで魅力的だが、最近のホルモン屋さんは驚くほど女性率が高い。こちら「ともちゃんほるもん」も気が付けば『女子会』でテーブル席が埋まっていたりする。

「道路に面していて窓が多いから入りやすいんじゃないですか？」と語るのは店長の西久保智則さん(32)。もちろん秘密はそれだけではない。ホルモンには珍しい「塩味専門店」なのだ。味付けはミネラル豊富な淡路島の藻塩とオリーブオイル。コラーゲンたっぷりで口当たりはさっぱり、とくれば女性へのアピール度が高いのもうなづける。

ここ数年、看板にシロコロを掲げる店が多い中、「ウチはマルチョウ推します。プリップリでジュワ～、です(笑)」。マルチョウとは小腸を筒状のまま裏返したもの。脂を閉じ込めたまま焼くので、囁んだ瞬間チタンと弾けて一気にエキスが広がる。「あとは牛ハラミとみやじ豚のバラもぜひ。みやじ豚というのは藤沢で生産されている豚です。脂身が甘くて本当に美味しいですよ」

そして隠れメニューとして人気なのが、なんと「シメサバ」だ。西久保さんは以前、和食店に勤めていたため魚の扱いはお手のもの。「ユッケを扱えなくなったため仕方なく…(笑)。ほぼ毎日やってるんで、常連さんからは『サバ屋』って揶揄(やゆ)されます。この辺は鮮度のいい相模湾のサバが手に入る所以で、秋じゃなくても



(右上から時計回り)酢もつ、牛ハラミ、牛タン、上ミノ、のぶえ、みやじ豚バラ



ディズニーランドで勤務した経験があり元ビザ職人でもある店長の西久保さん

うまいですね」。季節の野菜で作ったキムチも人気だ。

その西久保さん、この姿で意外と言っては失礼だが、お酒が一滴も飲めない。「牛の赤ワイン煮をつくっているだけで酔う」ほど。その分、勉強は欠かさないという。「酒屋さんにちょくちょく足を運んで教えてもらっています。この焼酎はどんな味で何に合うか、ボクが知っているお酒では何に似ているか、とかですね」。店内には梅酒も含め約80種の焼酎が並ぶ。「焼酎なら芋か麦か、

香りが強い方がいいか飲みやすい方がいいかななど気軽にご相談ください」。日本酒では神奈川の地酒「天青」がオススメ。海産物と違い、牛肉は「地物」。使うのが難しい。だからみやじ豚含め、それ以外の部分で地産地消を心掛けているという。

人気のレバ刺しは6月にも法的に提供が禁止される。「寂しい話ですけど、それまでにぜひ食べに来てください。おいしいの用意して待っています。最後の日はカウン

トダウンでもやろうかな？(笑)」

筆者自身が「ともほる」を訪れ、いつも迷うのが「焼き」か「鍋」か。実は七輪焼き

に勝るとも劣らない魅惑のメニューが「もつ鍋」。焼きと同じマルチョウから染み出た旨みのエキスで、具材の野菜から締めのちゃんぽんまで箸が止まらない。「暑い夏にもつ鍋っていうのも『おつ』ですよ」(西久保さん)。

う～～ん、余計悩むじゃないか…。

営業時間 17:00～2:00

毎週日曜日

藤沢市鵠沼石上1-3-10 1階

TEL 0466-50-8755

※藤沢駅徒歩3分。南口ファミリー通りを進んで、美容室エクセルの角を左折。約50m先の左側。飲み放題プランは基本3500円からだが「相談してください」。また「焼きのあとにもつ鍋の移行も大歓迎！」とのこと。

